

<p>支援活動の紹介</p>	<p>10代の性・生をともに考えるワークショップ～HIV/AIDS～</p> <p>私たちは、子供のあらゆる課題に対してエンパワメントの関わりで向き合っている。そんな中、性に対しての知識や情報があまりにも乏しかったり、誤った情報の中で悩んでいる子どもたちが多くに何か手だてはないかと取り組んだ。10代の子供たちに、性はもとよりHIV/AIDSに関する正しい知識や情報を伝えることで、子供自身が自分の身体の大切さ、感染についての誤った情報で差別、偏見について考えるきっかけを目的とした。性に対して、人権尊重としての具体的なテーマを語り、性・生について自己決定ができるよう支援する。</p>
<p>今年度の実績</p>	<p>近畿圏内</p> <p>公立中学校 5ワークショップ</p> <p>私立中学校 1ワークショップ</p> <p>公立高等学校 2ワークショップ</p> <p>支援学校高等部 1ワークショップ</p>
<p>次年度の活動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「性・生をともに考えるプログラム」を継続していくために、予算確保の一つとして、他企業や行政などの支援や助成金など、広範囲で調べていく。</li> <li>・地域の中学校・高校に対しては、当法人で請け負っている教育センターでの教員対象の研修で案内し、さまざまな生徒の課題が「性」に関連することなどを理解してもらい、「性・生をともに考えるプログラム」を届けられるように働きかける。</li> <li>・ワークショップを届けるにあたり、学校の時間割調整や、実施場所の設定などで、学校側の協力を得られやすいように、各学校現場には年度計画に入る時期から夏休み前までに働きかける。</li> <li>・前年度より継続して実施していく学校に対しては、以前に出会っている生徒たちとの再会を重視し、繰り返し意識の向上を促進する。</li> </ul>
<p>支援活動責任者からのコメント</p>	<p>二年間にわたり助成金で、プログラム実施への支援をいただき、ありがとうございました。今年度も予定していたワークショップ実施校が残すところ1校となりました。幅広い年齢層への拡張や早い時期からのHIV/AIDSの理解については、生きる力を育むための教育の一環として必須と考えています。昨年度、助成金で実施した学校が、今年度は、そのプログラムの実施を今の教育には必要と検討いただき、自主的に学校での予算を確保し実施したことは大きな成果だと実感しています。</p> <p>今後もこの助成金事業をベースに、学校教育でのHIV/AIDS予防啓発活動の定着をひろげたいと思っています。</p>